

# 奈良印良品

～キラリと光る 人・もの・知恵～

VOL.14

ならで活躍する人、ならから始まるもの、優れた技術や知恵を紹介します。

◀ 後ろの編み立て機で数々のニット製品が作られる。



## 奈良からのチャレンジ!!

### 技術を生かして挑戦を続けるニットメーカー

一流の技術で、靴下やスポーツウェアを製造する足高メリヤス株式会社。技術開発や新たな挑戦について聞きました。

靴下をはじめ、インナーやスポーツウェアなど、さまざまなニット製品を生産されていますね

製品の9割は、大手アパレルやスポーツメーカーから注文を受けて生産し、相手先企業の商標（ブランド）をつけて販売するOEM生産です。相手先企業と相談し何度も試作を出すことで、求められる機能や風合いをもつ製品を作っています。

**新連携支援事業\*では、伸びない部分をもつニット製法を開発されました**

融点の異なる2種類のプラスチック製糸を使い、編んだ後で加熱すると、融点の低い糸だけが溶け固まり、その部分は伸びません。原理は単純ですが、糸の組み方や熱のかけ方が難しかったんですよ。固まった糸が肌に触れないよう、内側に編む工夫をしています。

\*新連携支援事業…中小企業が連携して強みを持ち寄り、新たに行う事業活動を支援するもの

**この技術はどのように活用されるのですか**

伸びない部分でサポートし、膝などを痛めにくいスポーツウェアを作る時に

用います。1枚の生地として編むので、生地を貼り合わせたり縫い合わせたりする必要がなく、デコボコができません。

**技術力で最先端を走る一方で、30年続けている「あったか製品」も好評ですね**

技術革新は大変重要ですが、派手なもの早くあきらめる傾向もあります。



地味でもシンプルで、あたたかさ追求した、防寒タイツやインナーなどの定番商品は、何度も使ってくださいるリピーターが多いんですよ。

**今後、自社ブランドに力を入れていけるそうですね**

今はOEM生産がほとんどですが、足高の製品として満足いただけるものを作りたい、と一念発起。

新連携支援事業では「良い製品を作っても、お客さん（消費者）に魅力が伝わらなければダメだ」と学びました。その反省も生かして商品企画室を立ち

上げ、今年中には新しい自社ブランド製品を販売したいと思っています。取引先などから「本当に売れるんですか」などと言われると、正直なところ「恐い」という気持ちもあります。しかし、恐怖や「なにくそ」という気持ちをバネに挑戦したいですね。

### 足高メリヤス株式会社

〒葛城市 中戸 389  
TEL 0745・69・2451  
FAX 0745・69・2455  
www.ashitaka.jp/

昭和25年、靴下工場として創業。60年代半ばから防寒タイツの生産を開始。平成21年、経済産業省の新連携支援事業計画の認定を受ける。

奈良県では、明治時代に農業の副業として靴下生産が始まり、今では全国シェアの約半数を占める靴下産地に。皆さんが使っている「Made in Japan」の靴下も、奈良県産かもしれません。

◀ 「良い製品を作るだけでなく、お客さんにその良さを伝えていくことが課題」と語る足高宏和代表取締役社長。



ひろあか 総務部 玉中博貴さん

